

卒後藤谷塾 議事録

開催日時：平成 31 年 2 月 13 日（水）7：00～8：00 場所：テレビ会議

1. 近況報告

A：午前中は指導医の担当患者を診て、午後は看護師として部屋もちも行っている。

カルテの記載等も行っている。業務はたくさんある。

包括ケア病棟への移行に伴い、内科の医師たちも個別に診ておりその中で NDC としての働き方を見出すのが困難。包括ケア病棟で働けたらと思っている。

知識のアップデートはしているもののそれらを確認するため手段がない状況。

塾長より：4 月からの動きとして、誰とどのような話をするか考える必要がある。

医師は臨床を教えられるが立ち位置は決められない。需要はあるため今後話を進めていく。

B：3 月まで内科にて活動予定。先月と変わりなく指導医とともに 7-8 人程度の受け持ちをしている。困っていることは特になく、医師とディスカッションができています。

次代の NDC の確保や看護師全体のスキルアップが今後の課題。

今後の希望としては内科で活動していきたいが内科・外科・整形が特に人手が足りず、中でも整形での需要があるため、病院全体をみて考えたい。

C：整形外科にて 60 人の半分ほどの患者を診ており、内科的な介入をしている。

困っていることは 4 月からの活動が未定なこと。

今後の希望としては外科と考えている。在宅では訪問看護がなかなか進まないため介入することが難しい。全体の状況によると考えている。

塾長より：4 月からの立ち位置を明確にしていく必要がある。今後について相談する。

D：脳外科にて 10 人程度の患者さんを診ている。

退院調整や尿路感染の対応、経腸栄養の調整、人工呼吸器の離脱など。

困っていることはフォローアップの体制が話し合えていない。4 月からの話がすまないこと。

E：ICU で勤務しており月に 3 回ほど夜勤もしている。特定行為自体は実習生が行っている。

困っていることは 4 月からの活動について話しが進んでいないこと。

また、ほかの特定行為区分別修了看護師との役割分担も考えていく必要がある。

塾長より：4 月以降、救急と内科が切り離され体制が変わる。診療部にはサポート介入する。

F：変わりなし。週に 1 回救急にて当直を行っている。

今月はコメディカルの研修を実施している。今後横断的に活動するための基盤づくりをしている。

3 期生と話し合っており希望を聴きながら活動している。

来年度からは NP が増える予定。

塾長より：NP と協働していくように。

G：夜勤を行いながら特定行為をしている。また月に一回退院後訪問も実施。

シンポジウムに参加した。今後〇〇県で特定行為にかかわる看護師を育成していく方針であり、うまく協働

していく。

塾長より：看護師不足が続き、特定ケア看護師として働けていない現状はあるが、いつでも対応できるよう準備しておくこと。

H：ICU での対応や実習生の調整を行っている。病棟からのコールにも対応している。

今後主任業務とあわせて活動していく予定。

実習の指導調整が現在負担となっている。

塾長より：今後 ICU には医師が増える予定であり、内科やハイケア等で一緒に活躍できればと思っている。

I：変わらず。内科の医師が増えてきているため、整形外科の患者に需要があり、内科的な介入を内科医師と行っている。在宅がなかなか進みにくい現状は変わらず。2ヶ所の診療所での研修を予定している。

塾長より：体制が整ってきた。チャンスを活かせるよう積極的に学べるとよい。

2. 症例発表

主訴：下腿浮腫・尿閉 80代男性 別途参照

尿崩症に対してのレクチャーあり

塾長より 診断に関しては尿崩症でよいのか少し疑問が残る。

入院時の尿浸透圧や負荷試験の結果から尿崩症ではなく反応性の多尿である可能性もある。

抗コリン薬は前立腺肥大、緑内障で禁忌であり虚血性心疾患にも注意が必要であるため、ST変化は注意して観察する必要がある。